



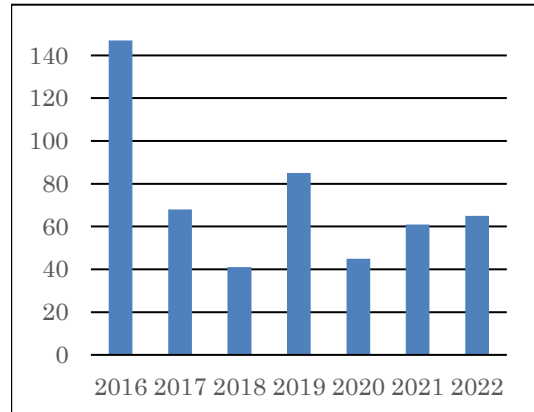
エゴノキ

1、2022年度葦毛湿原の動物調査－1

昨年に引き続き、2023年3月末までの一年間、二の沢で自動感知撮影カメラによる動物の定点撮影を行いました。2022年度の撮影回数は延べ65回でした。2021年度の撮影回数は延べ62回でしたので、撮影回数は約5%増えました。

植生回復作業で木を伐採した直後である2016年には裸地に近い状況で147回撮影されましたが、その後は若干の増減はありますが、年60回程度で安定しているようです。環境が安定したためかもしれません。しかし、2022年度は撮影された動物の種類に大きな変化がありました。

表1 年度別総撮影回数



1) 調査方法

2022年度は、二の沢のT地点で引き続き撮影を継続しました。撮影は、昼間はカラー、夜間はモノクロになっています。これは、夜間撮影時にカラー撮影するためにはフラッシュが必要になるので、動物を驚かさないようにして継続して調査をするためです。

表1 種別撮影回数一覧表

番号	種名	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	ニホンイノシシ	13	2	2	1	2	3	2		1				
2	ニホンノウサギ	1		1										
3	ホンドタヌキ	4					1				2			1
4	ホンドキツネ	2			2									
5	ハクビシン	3			1			2						
6	ニホンイタチ	1	1											
7	ホンドテン	6							1		2			3
8	ニホンリス	0												
9	ニホンアナグマ	2					1	1						
10	ヤマシギ	0												
11	コジュケイ	0												
12	ノネコ	1						1						
13	ニホンカモシカ	32	9	3	2	2	2	2	2		7	1		2
14	ハシボソガラス	0												
15	ハシブトガラス	0												
16	不明	0												
	合計	65	12	6	6	4	7	8	3	1	11	1	0	6

動物の撮影は葦毛湿原に訪れる動物の種類を把握するためやアライグマ等の外来種の確認のために二の沢に固定して継続して行っています。

2) 調査結果

2023年度は延べ65回撮影されました。内訳は表1、図1・2の通りです。前年度の2021年度（葦毛通信 No. 125）と比較して撮影回数はほぼ変わりませんが、2022年はカモシカの撮影回数が激増し、全体の傾向としては昨年とかなり異なった状態になりました。

2022年度の月別撮影回数は、4月、12月にピークがあります。10月から2月の冬季に撮影回数が少なくなっており、これまでと同じような傾向にあります。2月は撮影回数が0回ですが、センサーカメラに動物がぶつかったようで、木から外れて地面に落ちていました。このため、撮影がうまくいかなかった可能性があります。

撮影された動物の種類で最も多いのは、ニホンカモシカで32回

(49%)撮影されました。昨年は8回(13%)だったので、4倍に増えています。ニホンイノシシは13回(20%)で昨年の13回(21%)とほぼ同じで、この2種類で全体の約70%になりました。

この他はホンドテン6回(9%)、ホンダタヌキ4回(6%)、ハクビシン3回(5%)、ホンドキツネ・ニホンアナグマ2回(3%)、ニホンノウサギ・ニホンイタチ・ノネコ1回(2%)となっています。

2022年はニホンカモシカの撮影回数が2021年の4倍になりましたが、ニホンノウサギは2021年の21回から2022年は1回になり、激減しました。

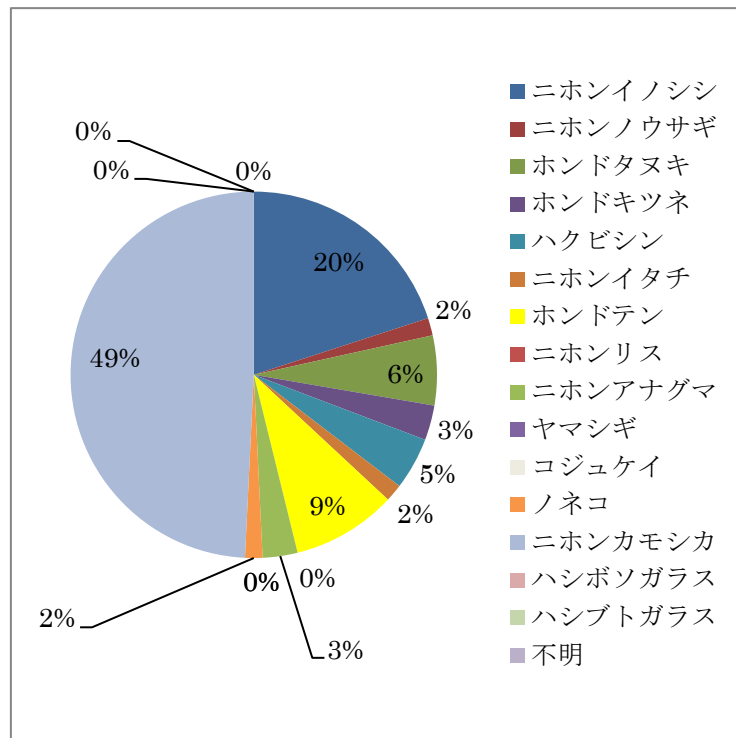


図1 種別撮影回数割合

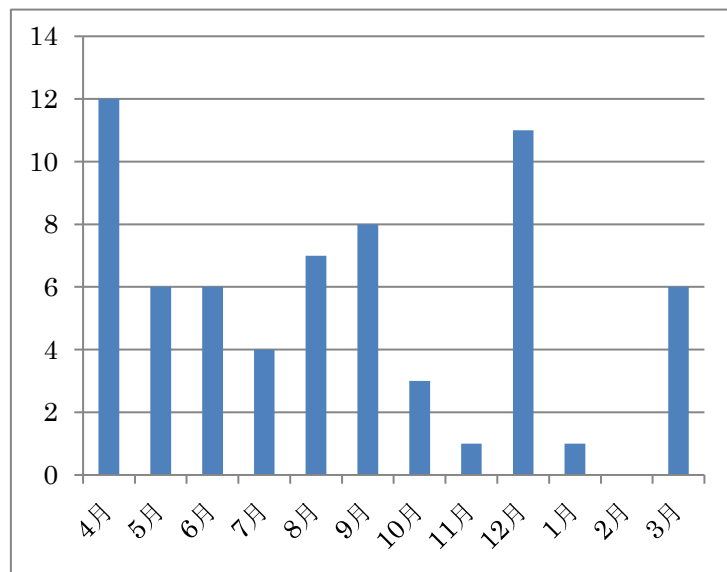


図2 月別撮影回数

3) 中間報告 (2016~2022年度)

二の沢では2016年度から撮影を継続していますが、昨年度に大きな変化が見られたので、これまでの7年間に撮影された動物種の変化を説明します。次頁表2の10キジバト・ヤマシギ、12シロハラ・ノネコに2種類の動物が入っているのは、他の動物の順番を変えないために、撮影回数が少なく、特殊なところに重ねたからです。

撮影回数が最も大きく変わったのはニホンノウサギです。2016年には二の沢の木を伐採して森から明るい草地になり、ニホンノウサギが76回も撮影されました。その後、伐採した木からヒコバエが伸び、草も成長して見通しが悪くなると撮影回数は減りました。し

かし、2018年に除草と伐根を行い、再び明るい草地になると2019年には撮影回数が増えました。その後急激に数が減り、2022年には1回にまで激減しました。

全体的な変化の傾向は、日照が確保された明るい草地では撮影回数が増え、植物が成長すると減る傾向にあります。撮影回数が多くても生息する個体数が多いとは限らないので、2022年に激減したのは、キツネ等の捕食動物に食べられた可能性もあります。

次に大きく変わったのはニホンカモシカです。ニホンカモシカは2016年から2021年までは10回以下で推移していました。しかし、突然2022年に32回に激増しましたが、その理由はよくわかりません。

ニホンカモシカは夜だけではなく、昼もたびたび撮影されています。また、回数は多くはありませんが、葦毛湿原を訪れた人たちにも目撃されています。

次頁は撮影された動物の写真の一部です。(次号に続く)

表2 年度別・種別撮影回数一覧表

番号	種名	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
1	ニホンイノシシ	18	15	4	9	8	13	13
2	ニホンノウサギ	76	31	12	50	14	21	1
3	ホンドタヌキ	12	12	0	9	5	5	4
4	ホンドキツネ	1	1	4	1	5	1	2
5	ハクビシン	9	4	2	1	0	2	3
6	ニホンイタチ	8	2	2	8	1	3	1
7	ホンドテン	0	0	4	3	3	5	6
8	ニホンリス	0	0	0	0	0	0	0
9	ニホンアナグマ	5	1	1	0	2	0	2
10	キジバト・ヤマシギ	1	0	1	0	1	0	0
11	コジュケイ	0	0	0	0	0	0	0
12	シロハラ・ノネコ	1	0	2	0	0	2	1
13	ニホンカモシカ	5	1	7	3	6	8	32
14	ハシボソガラス	10	1	0	0	0	1	0
15	ハシブトガラス	1	0	1	1	0	0	0
16	不明	0	0	1	0	0	1	0
	合計	147	68	41	85	45	62	65

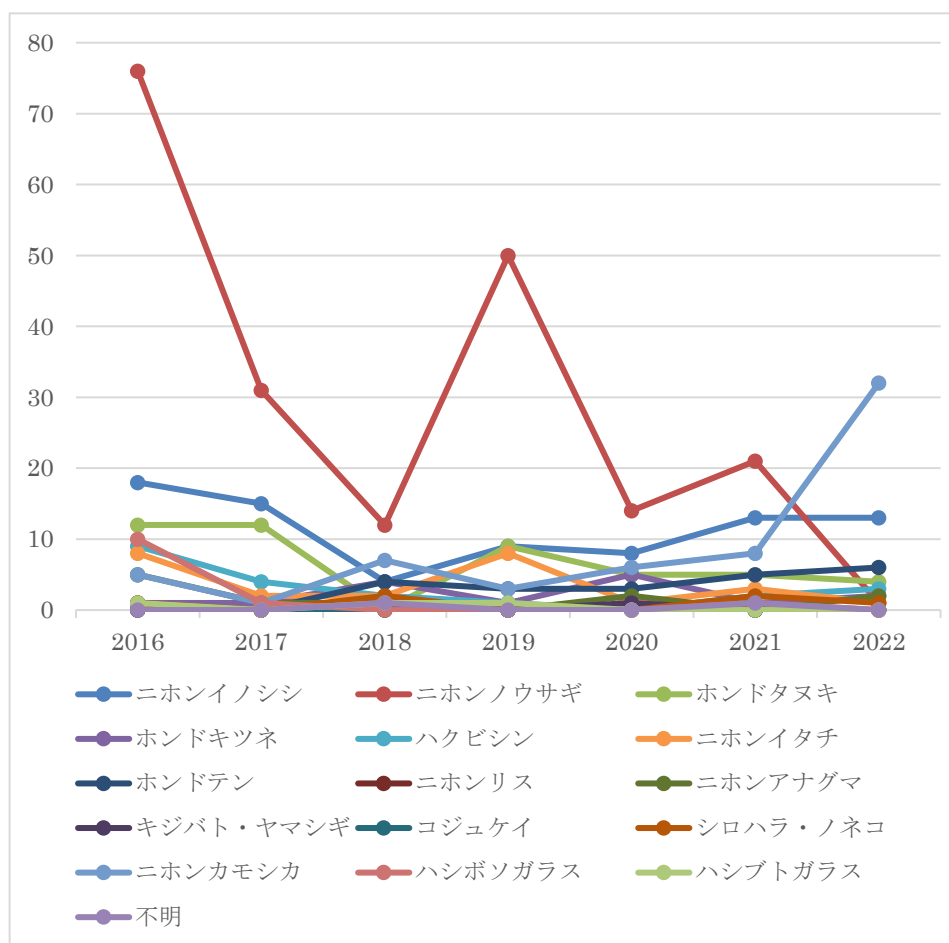


図3 年度別・種別撮影回数



ニホンイノシシ (2022年7月14日) ニホンイノシシの親子 (2022年9月25日)



ニホンノウサギ (2022年5月29日)

ホンドタヌキ (2022年12月17日)



ニホンカモシカ (2022年6月11日)

ニホンカモシカ (2022年12月3日)

(次号に続く)